

早春の庭めぐり

及川ふみ

去年の秋もくれて初冬の風うすら寒い頃に倉橋先生から「もう今年は少しおそいけれども校内の落葉を幼児に拾ひ集めさせると面白いでせう」とおつしやられた。

私はあゝおしい事だ今少し早く伺へばどんなにかいろいろの落葉も澤山にあつたであらう。いつか番町でも落葉をひろいあつめていらした様に思ひ出された。燈臺もと暗しおそまきながらも拾ひあつめた。それでも集めて見れば前月號に新庄さんがかゝれた様に數多くあつた。それから思ひついで今年は校内の草木の芽をたづねめぐつて見やうと考へた。今年はお正月早々からの大雪で寒さが随分はげしかつた。お庭の散歩によい日をまつてゐたがなか／＼なかつた。一月十九日にやうやく、午後、庭へ數人の幼児と出かけた。玄

關前のバラが赤い可愛い芽を方々に數へたてられないほごつけてゐる。バラの外に芽の出てるものがあるか、さがして下さいと一緒に築山を一週する。枯れたやうなあぢさいの枝からも、うす緑の新芽が澤山に出てるのも見つけた。真中にたつてゐる二本の山茶花の細い芽も見つけた。枯れた菊の根もとからも小さい澤山の若芽を見つけた。寒い／＼とお部屋の中ですくんでゐる間にも草木は／＼と春の支度をしてゐたのだと思ひながら、女學校のお庭のにはとこの木を見につれていつた。芽が出てゐるともゐるとも、一寸五分位も青々とのびてゐた。この木は芽ぐむのが早いものとは知りながら幼児をこゝへつれてきたのではあつたが、こんなのにのびてゐやうとは思はなかつた。本校の方へもつと芽をさがしにゆこうと幼児はい

つたがもうお歸りの時間になつたのでこの日はこれでやめた。

その後數日して又本校の庭へ芽を見つけにいつた。木の種類も多いので、この日は十數種の新芽を見つけた。

二月十日と十三日の大雪でしばらくの間は芽をたづねる事が出来なかつたが二月二十四日あたゝかなよい日であつた。自分は新入園児保護者會の支度でゆかれなかつたので村上先生と本校の教生の方に又芽をたづねに連れていつていたゞいた。今日はすぐに幼兒は歸つてきた様なけはひがした。今日は澤山見つかりましたかと村上先生にたづねると、芽を見つける前に霜で道がわるくて歩けなくなつてすぐひきかへしました。一人一人の靴の泥をあらふに今までかゝりましたとおつしやつたのでほんとにすまなかつた。

三月二日、幼稚園の花壇に埋めていたゞいたチユーリップの芽も五分位になつてゐた。幼兒と一つ二つと數へて見ると三十八ばかりも出てゐた。

朝顔の竹垣の後へ蒔いてもらつたスウキトピーはごうなつたかと見ると、今年の烈しい寒さにまけたのか、やつと二三本、しかもまことにあはれな有様であつた。藁でもかけて霜よけをしておけばよかつたのにと残念に思つた。

これからは口増に暖く毎日の様に庭に出で草花の手入れも出来る様になる。つくしも出ればたんぼゝもある郊外の幼稚園がつくゞうらやましい私はこうして時々庭へ幼兒と一緒に芽をたづねるのも、別に、芽の出た木の名を教へるのが本意であるのでもなければ、草の名を教へるのが本意でもない。四月五月になつて種々な花が美しくさいた時に幼兒がその花を大事に可愛がつくれる様にしたしませたいのである。數十の椿の蕾が一朝のうちの一つ残らず綺麗に幼兒にもぎとられた時もあつた。あすにも開かん水蓮の花をぶつりと水がめの外へすてられた時もあつた。こんな悲しい事のない様にいつもいつも幼兒がお庭の草木を可愛がつてくれる様に親しませたいためであ